

▽ 田場 裕規 准教授 TABA, Yuuki



学 科: 日本文化学科

担当科目: 日本文学を読むⅠ・Ⅱ, 古典に親しむ, 古典に学ぶ,
ゼミナールⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ, 卒業論文,
国語科教育法Ⅱ, 国語科教育法演習Ⅰ・Ⅱ,
日本古典文学特論ⅠA, ⅠB(大学院)
国語科教育学特論Ⅰ, Ⅱ(大学院)

学歴等のプロフィール

① 【 主 要 学 歴 】

兵庫教育大学大学院 学校教育研究科 教科・領域教育学専攻言語系コース国語分野 修了

② 【 学 位 】修士(学校教育学)

③ 【 所 属 学 会 】萬葉学会, 美夫君志会, 言語表現学会, 日本国語教育学会, 全国大学国語教育学会,
日本文学協会, 奄美沖縄民間文芸学会、沖縄文化協会

④ 【 主要な社会的活動 】

沖縄県高等学校郷土芸能大会審査員(平成28年11月)

全国高等学校読書体験記コンクール沖縄選考会審査員(平成23年10月～)

沖縄県高等学校総合文化祭弁論部門大会審査員(平成27年9月～)

沖縄県立那覇西高等学校評議員(平成24年5月～平成25年3月)

沖縄県立開邦高等学校評議員(平成25年5月～平成26年3月)

宜野湾市老人福祉センター後期教養講座講師(平成25年2月、平成26年2月)

沖縄県高等学校図書館協議会事務局長(平成17年4月～平成18年3月)

沖縄県子どもの読書活動推進会議委員(平成17年6月～平成18年3月)

独立行政法人大学入試センター試験問題評価委員会委員(平成14年1月～平成15年12月)

研究業績等

【 主要論文及び主要著書 】

(論文)

- ① 沖縄・地域から考える「伝統的な言語文化」－〈声〉と〈身体〉をどうするか
月刊国語教育研究 537(1月) 4-9 2017年1月
- ② 組踊をめぐる諸問題—新作組踊・教育・〈シマクトゥバ〉—
武蔵野文学 特集沖縄方言とその周辺 63 24-28 2015年12月
- ③ 組踊「執心鐘入」の教材開発——沖縄の国語教育を考える(2)——
沖縄国際大学日本語日本文学研究 20(1) 左17-左25 2015年11月
- ④ 万葉集の学習と関連画像——〈見ること〉・身体感覚・共感
沖縄国際大学日本語日本文学研究 19(2) 左25-左30 2015年2月
- ⑤ 組踊の身体—身体感覚・身体技法の継承—

南島文化 (35) 7-18 2013 年 3 月

⑥ 地域の言語文化と教育—沖縄の国語教育を考える (1) —

沖縄国際大学日本語日本文学研究 16(1) 79-92 2011 年 10 月

⑦ 万葉集歌の文字遣い—「灼然」を中心に—

沖縄国際大学日本語日本文学研究 15(2) 1-14 2011 年 3 月

⑧ 対話と演劇的表現活動—人間関係形成能力を育成する視点を活かして—

『月刊国語教育研究』 421(5 月) 22-27 2007 年

⑨ 「言語活動例」を取り入れた指導法の研究

平成 13 年度沖縄県立総合教育センター協力員共同研究紀要 14 2002 年

(著書)

①『沖縄から考える「伝統的な言語文化」の学び論』(村上呂里・萩野敦子編)

「第三章 国語科における沖縄古典芸能の教材化の視点と意義—「伝統的な身体文化」と「伝統的な言語文化」—」溪水社 2014 年 2 月 28 日 ISBN978-4-86327-250-7

平成 25 年度科学研究費補助金研究公開促進費(学術図書)採択(課題番号 255218)

②『教師が学び生徒が生きる国語科授業づくりの視点と実践(中学・高校版)』(沖縄県・国語科の授業づくり研究会編)

(担当:分担執筆,範囲:1.第2章授業づくりのポイント高等学校編「〈話すこと聞くこと〉〈読むこと(古典)〉+『伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項』)」沖縄タイムス社 2013 年 2 月 ISBN:978-4-87127-650-4

③「帯単元で鍛える話す力・聞く力—授業開始 5 分間を活かす」、『月刊国語教育 2004 年 6 月号』特集「話すこと・聞くこと」の力を鍛える、pp.40-43 東京法令出版 2004 年

④『指導を高める評価改善の決め手』第二章 提案編高等学校における指導と評価の改善・「書くこと」の領域、児玉 忠・國場 厚子・田場 裕規・島仲由美子・砂川裕佐子、『月刊国語教育 2002・5 別冊』(東京法令出版)、田中孝一・河野庸介編集、pp.114-117 東京法令出版 2002 年

⑤「座標軸でとらえる下人の心情の変化」、『実践国語研究 2001 年 10-11 月号』225 号、全国国語教育実践研究会編集『一人一人が的確に「読むこと」の学習課題の工夫』、pp.56-60、明治図書 2001 年(学会発表・講演等)

① 伝統文化と学校教育 平成 28 年度奄美沖縄民間文芸学会沖縄大会、2016 年 9 月 11 日、奄美沖縄民間文芸学会「伝統文化と学校教育」

コーディネーター:田場 裕規(沖縄国際大学准教授)

パネリスト:村上 呂里(琉球大学教育学部教授) 「伝統的な言語文化」と国語科

辻 雄二(琉球大学教育学部教授) 地域と「民俗的知」の活用

田名 裕治(那覇国際高校教頭) しまくとぅばと学校教育

大城 貞俊(沖縄国際大学非常勤講師) 地域教材の開発

② 第 5 分科会 地域の言語文化の継承と学び 第 2 回日本国語教育学会沖縄大会、2016 年 8 月 10 日、

主催:日本国語教育学会・沖縄小学校国語教育研究会

第 5 分科会 地域の言語文化の継承と学び

コーディネーター 田場 裕規(沖縄国際大学)

提案者 酒井 里見(喜如嘉小学校)

米嵩 睦子(琉大附属小学校)

伊野波盛人（普天間高等学校）

指定討論者 五十井 美知子（日本国語教育学会事務局長）

指定討論者 村上 呂里（琉球大学）

③ 組踊「執心鐘入」の対話

兵庫教育大学言語表現学会

平成二十七年 第2回研究発表会 2015年10月3日

④ 万葉を心の糧に～歌に親しむ・古典に学ぶ～

第52回南部学校図書館協議会講演会 2015年6月24日 南部学校図書館協議会

⑤ 琉球芸能に親しむ・学ぶ

沖縄県立泊高等学校通信制課程「総合的な学習の時間」 2015年5月29日

⑥ 組踊「執心鐘入」と演出—研究上演「沖縄の古典芸能を考える」を例に—

⑦ 2014年度奄美沖縄民間文芸学会沖縄大会（沖縄国際大学） 2014年9月23日

⑧ 伝統文化を活かす国語の授業づくり—組踊「執心鐘入」を例に—

第5回沖縄県・国語科の授業づくり研究会 2014年6月14日

⑨ 授業実践のための組踊学習会～教育課程にどう位置づけるか～

沖縄県高等学校障害児学校教職員組合主催 2014年5月23日

⑩ 組踊「執心鐘入」の教材性—「伝統的な言語文化」の教材として—

第126回全国大学国語教育学会 2014年5月

⑪ 大学入門講座「伝える技術・伝わる論理—志望理由書・自己推薦文の書き方—」

沖縄県立北谷高等学校 2013年7月3日

⑫ 大学入門講座「伝える技術・伝わる論理—志望理由書・自己推薦文の書き方—」

沖縄県立首里東高等学校 2012年7月18日

⑬ 組踊の身体—身体感覚・身体技法の継承—

沖縄国際大学総合研究機構南島文化研究所主催 第178回シマ研究会 2012年7月23日

⑭ 地域教材がひらく可能性—〈沖縄〉関連教材の過去現在未来／「地域の言語文化」を生かして古語と現代語の世界を考える

第122回全国大学国語教育学会 2012年5月

⑮ 組踊『執心鐘入』と国語科

第122回全国大学国語教育学会筑波大会 2012年5月

⑯ 組踊とは何か—組踊の伝統と継承—／「組踊の身体について」

復帰40周年沖縄国際シンポジウム—これまでの沖縄学、これからの沖縄学—（早稲田大学） 2012年3月

⑰ 万葉を心の糧に—歌に親しむ・古典に学ぶ— 読谷村立図書館古典文学講座 2011年1月（その他）

①（解説）人の心に人を住ませる—大城貞俊の聴く力

田場 裕規

大城貞俊『奪われた物語—大兼久の戦争犠牲者たち』 2016年6月

②琉球新報（芸能）13面 寄稿 組踊の継承 琉球新報 2015年2月4日 2015年2月

③琉球新報（教育）14・15面「子どもの読書を考える座談会」琉球新報 2014年1月3日 2014年1月

④琉球新報（芸能）15面「古典芸能の要件」

琉球新報 2013年11月20日 2013年11月

⑤琉球新報 松竹大歌舞伎インタビュー「菊之助の女形注目」

琉球新報 2013年10月29日 2013年10月

⑥琉球新報（芸能）11面「新作組踊への戸惑い—玉三郎の身体」

琉球新報 2013年6月12日 2013年6月

⑦国立劇場おきなわステージガイド 華風2月号 第58回組踊公演「矢蔵之比屋」解説「第一部琉球舞踊」「第二部『矢蔵之比屋』鑑賞のてびき—組踊学びの放射線—」PP8-12 2013年1月

⑧琉球新報「『沖縄の昔話研究を拓く』講演会に寄せて」

琉球新報 2012年12月14日 2012年12月

⑨画廊沖縄 The Gallery Voice No.50「身体と記憶」金城満展 シリーズ「免疫」

画廊沖縄 The Gallery Voice No.50 2012年9月12日 2012年9月

⑩沖縄タイムス（芸能）評「新作能『ひめゆりの乙女達』」

沖縄タイムス 2012年8月17日 2012年8月

⑪琉球新報（芸能・文化）書評『きむたかの翼』 地域教育、結実への記録

琉球新報 2011年12月11日 2011年12月

⑫〔伝統的な言語文化に関する事項〕の指導—地域の教材と万葉集歌をつなぐ視点をいかす—
おきなわ国語教育（沖縄県高等学校国語教育研究会）（13）17-24 2010年3月

⑬「テスト問題・解答解説」の作成で培う読解力の育成

おきなわ国語教育（沖縄県高等学校国語教育研究会）（9）11-15 2006年3月

研究分野

古典文学, 万葉集研究, 国語科教育学

【Eメール・ホームページ等】

ytaba@okiu.ac.jp

<http://www.okiu.ac.jp/sogobunka/nihonbunka/syamaguchi/gakkahp/newgakka/jhome.html>

<http://researchmap.jp/read0156823> （←より詳しい情報を随時アップしております。）

平成29年 4月 13日現在

主な教育活動	年月日	摘要
1. 教育活動・方法 1) 基礎演習Ⅰ・Ⅱ	2010年4月～7月 9月～1月	<p>(2単位)(前期)日本文化学科・1年次、 2クラス×2＝92名</p> <p>・本講は大学生として必要となる「アカデミック・スキル」の習得と養成を目的とする。即ち、情報収集力、分析力、思考力、批判力、発表力、論文記述力等、言語を中心とした能力を自律的かつ協同的に学ぶことを目指し、日本文化学科における学びの基礎を養成する。</p> <p>*第1回～第9回までは、テキストを用いて講義及びグループワークを行い、第10回～第15回まではグループ発表の予定。グループ発表は、古典文学や古典語に関する調査を踏まえた発表とし、テーマはグループ分け終了後に提示する。</p> <p>『宇治拾遺物語』「鬼に瘤取らるる事」の分析を行い、集団討議を行った。</p>
2) 日本文学講読Ⅰ	2010年4月～7月	<p>(2単位)(前期)日本文化学科・2年次)、 74名登録</p> <p>・本講は『源氏物語』桐壺巻の講読を行い、語彙、文法、表現等への理解を深め、古文読解力の養成をめざす。国語の教職免許状取得のために必要な科目でもあるので、高等学校において教えるうる読解力を想定して講義する。また本文(青表紙本の変体仮名)の読みに慣れることも目指す。</p> <p>*テスト・レポート(10枚以上)を課している。学習支援を希望する学生4名に、基礎的な文法の課外活動を行った。</p>
3) 春季ゼミ研修旅行	2012年3月 2013年3月 2014年3月	<p>・古典文学の故地を実際に訪れ、文学に関する知見を深め卒業論文等の研究に生かし、ゼミナール活動の活性化を図る。研修後、旅行記を発刊する。</p>
2. 作成した教科書、教材、参考書 1) 基礎演習の共通教材の開発	2011年7月	<p>FD支援プログラムにおいて、『知をひらく新入生ブックガイドにちぶん羅針盤(こんばす)』(169頁)を作成した。初年次教育の充実の観点から、本学科専任教員に本の紹介をしてもらい、夏季休業期間中に、最低3冊の読書を勧めた。</p>

<p>3. 学生支援活動 1) 面談</p>	<p>2011年4月</p>	<p>専門ゼミ履修者全員に対して、年度はじめに、修学・キャリア・学生生活等に絞った面談を行った。特に学習不振の者には、数回の面談を行った。</p>
<p>2) サークル活動</p>	<p>2011年</p>	<p>詩舞サークル顧問</p>
	<p>2012年～現在</p>	<p>格闘技サークル顧問 琉球芸能文学研究会顧問</p>
<p>4. 学外での活動</p>	<p>2010年6月</p>	<p>沖縄県国際教育研究協議会</p>
<p>1) 第1回留学生日本語弁論大会沖縄県代表選考会 審査員</p>		
<p>2) 読谷村立図書館古典文学講座 講師</p>	<p>2011年1月</p>	<p>『万葉を心の糧に一歌に親しむ・古典に学ぶ』(学外公開講座)</p>
<p>3) 第45回沖縄県高等学校図書館協議会研修会 講師</p>	<p>2011年6月</p>	<p>「新学習指導要領における読書指導」</p>
<p>4) 沖縄県立那覇西高等学校 校学校評議員</p>	<p>2011年6月</p>	
<p>5) 沖縄県立開邦高等学校 PTA文化講演会 講師</p>	<p>2011年10月</p>	<p>『万葉を心の糧に一歌に親しむ・古典に学ぶ』(学外公開講座)</p>
<p>6) 第31回全国高校生読書 体験記コンクール 審査員</p>	<p>2011年10月</p>	
<p>7) 第32回全国高校生読書 体験記コンクール 審査員</p>	<p>2012年10月</p>	
<p>8) 第33回全国高校生読書 体験記コンクール 審査員</p>	<p>2013年10月</p>	